

(仮称)伊豆市美術館基本構想
答申書

平成 29 月 1 月 17 日
伊豆市美術館建設準備委員会

目 次

はじめに	1
第 1 章 (仮称)伊豆市美術館の必要性	2
1. 美術館設置の目的	
2. 地域文化の醸成	
第 2 章 (仮称)伊豆市美術館のコンセプト	3
1. 適正な維持管理と次代への承継	
2. 新たな地域文化創造拠点	
3. 地域密着型の「まち」に息づく美術館	
第 3 章 (仮称)伊豆市美術館に求められる機能	4
1. 展示機能	
2. 収集・保管機能	
3. 教育普及機能	
4. 情報発信機能	
5. ユニバーサルデザイン	
第 4 章 (仮称)伊豆市美術館の整備のあり方	6
1. 建設地の条件	
2. 施設整備	
3. 環境への配慮	
第 5 章 (仮称)伊豆市美術館の管理運営のあり方	8
1. 管理運営コスト	
2. 管理運営方法	
3. 市民との関わり	

はじめに

伊豆市では日本画・洋画・工芸品などの優れた美術品を215点（平成28年現在）所蔵しています。これらは平成16年4月の旧四町（修善寺町、中伊豆町、天城湯ヶ島町、土肥町）合併の際に各町から引き継がれたものです。

なかでも相原家（旧修善寺町）からの寄贈品109点、石井家（沼津市）からの5点、川端家（東京都）からの3点の計117点に及ぶ近代日本画は伊豆市の美術品の核を成すものであると言えます。この日本画コレクションの形成に欠かすことのできない人物が相原沫芳氏（本名：寛太郎 / 以下、沫芳と記す）です。

修善寺温泉の旅館、新井（新井旅館）の三代目館主であった沫芳は、自らも絵筆を執り、多くの画家たちと深く親交を重ねたことで、その元には多数の作品が残されました。「沫芳コレクション」ともいうべきこれらの作品群は、横山大観をはじめ、今村紫紅、小林古径、安田靉彦ら明治後半から昭和初期にかけて活躍した画家たちの若き情熱溢れる作品で構成された、大変貴重な一大コレクションとなっています。

旧修善寺町、そして伊豆市ではこれらの日本画を旧修善寺郷土資料館にて展示し、多くの方々に観覧いただいておりますが、同資料館の閉館によって展示場所を失い、市内の公設施設においてこれらを展示公開することが難しくなりました。この貴重な日本画コレクションは、伊豆市が誇る文化資産であり、引き続き多くの方々に観覧いただきながら、次世代に渡ってしっかりと保管していかなければならないものです。

平成27年2月、第1次伊豆市総合計画の一環として、長年の懸念でもあった美術館建設につき、「伊豆市美術館建設準備委員会」を設置、以来2年に渡り有識者を交えての議論や市民フォーラム、各地区における意見交換会など様々な形で美術館の必要性やコンセプト、必要な機能、整備・管理方法などについて検討して参りました。その結果として、これら貴重な美術品を適切に管理し、守り、伝えていくことは私たち市民の責務であるとともに、美術館は市民の美術に対する理解を深めることに資することから、建設すべきであるという結論に至り、そのあるべき姿について基本構想としてまとめました。

美術館の建設に向けては課題が山積しておりますが、多くの方々に深く愛され親しまれる美術館となるべく、市民協働により実現に向けて取り組んでくださいますようお願い致します。

第1章（仮称）伊豆市美術館の必要性

1．美術館設置の目的

伊豆市で所蔵する近代日本画は、伊豆の温泉文化を語る上での重要な資料であるとともに、伊豆市の魅力を内外に広く発信することのできる高い価値を持った美術品であり、いわば郷土の宝とも言うべきものです。

これら郷土の宝を正しく適切に管理・保存し、後世に伝えていくための「館」を整備すること、よりよい環境でより多くの人々に親しんでもらうための施設環境の整った「場」を設置することは、寄贈者の意思でもあり、現代を生きる我々市民の使命であると考えます。

2．地域文化の醸成

これらの美術品は、伊豆の気候や風土、人々との交流によって自然発生的に生み出されたもので、そこからは画家の真摯でひたむきな情熱と、それを支えた人々の思いや絆を感じとることができます。

この宝を守り、より価値あるものにしていくためには、市民の意思による積極的な関与が必要であり、これらの作品との接点となる美術館の建設が必要であると考えます。

一方、美術館は単に保存、管理、展示を行うだけに留まらず、美術に関する様々な役割を担うことが期待されます。市民の美術に対する関心を高め、関与を促す教育普及活動や、新しい才能を発掘したり、作品を通じた交流を行うなどの支援活動はその重要な役割のひとつと言えます。市民と文化芸術との距離を縮め、理解を深めるための端緒となる美術館は、貴重な美術品を数多く所蔵する伊豆市の未来に大きく貢献する施設となるでしょう。

第2章（仮称）伊豆市美術館のコンセプト

1．適正な維持管理と次代への承継

伊豆市で所蔵する美術品は地域の文化交流の歴史を現代に伝える貴重な資料であり、その価値を正しく理解し次世代に伝えることは私たち市民の責務であると言えます。美術館はこれら文化遺産を適切かつ慎重に管理し、守り継いでいくことがなにより優先されなければなりません。

また、必要な情報を整理し、携わる誰にとってもわかりやすい資料とすることや、研究を通じて作品に新しい価値を付け加えることなど、作品を活かし、作品を育てる美術館となることが理想です。

2．新たな地域文化創造拠点

かつて若い作家の後ろ盾となって支えた沐芳氏のように、美術館では新しい才能を積極的に支援し、多くの交流の拠点となることを理想とします。市民と作家の交流、作家と作家の交流、市民と市民の交流、多くの交流から新しい文化や芸術が誕生するでしょう。美術館はこの交流を結びつけるための「装置」として、新しい歴史や文化を生み出す「場」として、生きた活動を支援していく必要があります。

3．地域密着型の「まち」に息づく美術館

周囲の環境や施設と相互補完し、魅力を引き出すことで、新たな観光拠点として「街のにぎわい創出」に貢献する場所となることを理想とします。

また、市民と文化・芸術との距離を近づけ、多くの人が集う場所となること、情報の集積・発信基地としてさまざまな人が行き交う場所になることが求められます。

第3章（仮称）伊豆市美術館に求められる機能

1．展示機能

所蔵作品の常設展示と、借り受けた作品を用いての企画展示を行うための十分なスペースと機能が必要です。

また、市民が所蔵する作品の展示や、文芸作品などを用いた伊豆市を内外にアピールするための展示など、様々な展示に活用できる応用範囲の広い展示機能の整備が必要です。

2．収集・保管機能

収蔵庫における作品の保管はもちろんのこと、地域に埋もれている美術作品を掘り起こして収集、保管するなど、新たな価値の創造を行いたいと考えます。

また、他館からの美術作品の借り受けにおける荷解き場、梱包材の保管庫のほか、展示用備品の倉庫、資料撮影のためのスペースも十分考慮する必要があります。作品の搬出入に関わるトラックヤードや、事務管理を行うための十分なバックスペースも確保する必要があります。

3．教育普及機能

芸術に親しむ人々の層を広げることは、市民の生涯学習に結びつきます。美術と人を繋ぐ架け橋として、当美術館に美術教育普及のための機能を持たせたいと考えます。美術に対する理解を深めるために、小中高等学校などの教育機関との連携による美術教育の推進や、ワークショップ、ギャラリートーク、ガイドツアーなどが一例として想定されます。

4．情報発信機能

美術館の展示等の活動を通じ、市民や国内外に向けての情報発信や伊豆半島の各美術館の展示会やイベント情報を収集し、来訪者に伊豆半島全体の文化振興と観光周遊等に寄与できるような情報を発信することが望まれます。

また、国内外からのあらゆる来訪者や関心を持った方に対して、わかり易く作品の魅力や伊豆市の文化や観光の魅力を伝えることが望まれます。

5 . ユニバーサルデザイン

いかなる来訪者にも配慮された使いやすく機能的な施設設計が必要です。来訪者にとって居心地のよい空間であり、わかりやすく管理された情報が提供され、簡潔でシンプルで柔軟性をもった設備が整うことが理想です。市民に評価され、市民にとって誇りとなる美術館でありたいと考えます。

第4章（仮称）伊豆市美術館の整備のあり方

1．建設地の条件

伊豆市で所蔵する近代日本画は、作家との深いゆかりから自然発生的に集まったコレクションであることをその大きな特徴としています。これらの作品は伊豆市のかげがえのない財産であるとともに、次世代に伝えるべき大切な価値を持った預かりものでもあります。

美術館の建設地については、その作品価値を十二分に引き出し、地域の魅力をより高めることを第一条件に選定される必要があります。その場所は作品にゆかりの深い修善寺温泉場が適当であると考えます。具体的な建設地については本基本構想を踏まえ、早急に決定する必要があります。

2．施設整備

施設の整備にあたっては、展示エリアや収集・保管スペースはもちろんのこと、事務管理に必要なスペースを十分に確保する必要があります。以下、具体的に検討されるべき内容は以下の通りです。

展示エリア

- ・所蔵美術品の中核となる近代日本画の常設展示を行う機能
- ・借り受けした作品を中心とした企画展示を行う機能
- ・市民ギャラリーや情報発信機能を持った交流展示機能

収集・保管エリア

- ・収集作品の受け皿となる十分なスペース
- ・荷解き場、梱包材の保管庫など

事務エリア・バックヤード

- ・研究、撮影、展示備品の作成、管理などを行うスペース
- ・トラックヤード、作品運搬用の大型エレベーター（階上を設ける場合）など、作品の搬出入に必要なスペース

駐車場

- ・立地やコストの面から駐車場は特段の整備はせず、周辺の既存駐車場を利用した地域共存型とすることが望ましい（敷地内には身障者用など必要最低限のものを設置）

3. 環境への配慮

美術館は建築資材に伊豆市の間伐材を用いたり、太陽光をはじめとする自然エネルギーを導入するなど、環境に配慮されたエコでエネルギー効率の高い施設とする必要があります。様々な仕組みを検討し、今後新たに開発される技術を積極的に導入するなど、永続的で持続可能な設備であることが求められます。

第5章（仮称）伊豆市美術館の管理運営のあり方

1．管理運営コスト

施設整備はもちろん、開館後の運営コストが市民の負担にならないよう配慮される必要があります。無理なく長期的な運営を可能とするための様々な施策の検討が必要です。

2．管理運営方法

伊豆市の直営のほか、指定管理者や財団法人など、その管理運営方法については今後専門家や市民の意見を踏まえて決定していく必要があります。管理・運営にあたっては施設の魅力を最大限に引き出し、安定した運営を行える者が選任されることを要望します。なお、選任にあたっては公平性の担保が不可欠と考えます。

3．市民との関わり

小中高等学校などの教育機関や市民との連携をはかるべく、市民が積極的に美術館に関われる制度の構築を希望します。市民が誇ることができる「私たちの美術館」となるよう、官民協働による地域密着型の運営が行われることを望みます。